

【出版案内3】

「日本の土地—その歴史と現状—」

いわゆるバブルの崩壊以降、土地神話の崩壊を境に、地価や土地需給、土地に対する意識など土地を取り巻く経済的、社会的環境には大きな変化が見られ、歴史的転換点を迎えているように思われる。

このような動きをフローのデータや現場の声、意識調査等をもとに追いかけることは可能であるが、それを原因も含めて十分に理解し、将来を見据えるのは容易ではない。ようやく近年になって、土地基本調査や地籍調査等により、土地のストックとしての所有・利用状況等が把握されるようになりつつあるが、さらに根源まで突き詰めてみると、今日の土地の所有・利用形態、土地に対する意識等は、すべて国土、風土を所与の条件とした日本人の土地の上で営まれる生産、生活、そして土地に関して定められた諸制度等の連綿たる歴史の積み重ねであることに気が付くはずである。

本書は、国土庁土地局土地情報課と土地総合研究所の共同の企画により生まれたものである。そもそもの企画の動機は、一般的な歴史書は数々あるが、土地を主題に古代から現代、現状にわたり外観した本が皆無に等しいということであった。本書は日本の土地の歴史に焦点を絞り、しかも、正確さ失しない範囲で可能な限り平易で読みやすいよう編集している。

監修＝国土庁土地局土地情報課

編集＝（財）土地総合研究所

発行＝（株）ぎょうせい

平成8年11月初版発行